

福岡赤十字病院広域連携型初期臨床研修プログラム A  
(2025 年度採用)

福岡赤十字病院

## 臨床研修について

---

はじめに

昨今の医療制度改革においては、急速な少子高齢化および長期にわたる経済の低迷、また、医学の進歩を背景とした医療技術の発展、国民の権利意識の高揚などから、医療費の抑制などを基本とした、より質の高い医療の提供が求められているところでもあります。そのようななか、我々医師の役割は、効率的な医療提供の体制を図ることは勿論のこと、患者の特性に応じた医療、すなわち患者中心の医療を行うことや各々における医療技術の適正な評価及びプライマリ・ケアを中心とした親切且つ適切な医療の提供並びに患者サービスの向上に努めることであり、言い換えれば、独自性及び計画性を持った医療の提供であるということは言うまでもないことです。

では、プライマリ・ケアを中心とした基本的臨床能力とは何でしょうか。

プライマリ・ケアの能力とは、「患者のあらゆる健康問題に対処することができる能力」のことです。現代においては、病気でありながら実に1／3の人しか病院を訪れていないと言われています。そのようななか、医師は単なる医学的なアプローチだけではなく、全ての資源を有効活用し、継続的に責任を持った診療を行うことであり、また、現場にいれば、さまざまな疾患・疾病に対する知識、患者からの情報収集能力、情報収集後の的確な判断能力、そして、その判断に基づいた技能、また、さまざまな状況を踏まえたうえで、患者の人間性を尊重し、かつ利他的な態度で接することが求められます。それも医師の社会的使命と公衆衛生への寄与という役割を考えれば、いずれも至極当然の医師像ではありますが、卒業後間もない研修医にとっては、これから歩む医師としての使命や責任の重さをあらためて思い知らされることでしょう。

広域連携型プログラムは、異なる医療現場の特性、魅力を生かした良質な研修機会の充実を目的としています。異なる地域で研修を経験することにより、キャリアの選択肢が広がり、自身の適性に気づく契機となることが期待されます。

将来、皆さんが如何なる専門分野に進もうとも、今から始まるこの2年間の研修は、医師としての方向付けを行う極めて重要な期間であることを自覚するとともに、今後研修を始めるにあたり、医師を志した“初心”並びに社会人としての“自覚”を忘れず、自らを高める姿勢を持ち、日々精進していただきたいと思えます。

# 病院概要

---

- 理念：信頼と調和に基づく最良の医療～地域を尊重、世界を視野に
- 基本方針：1. 質の高い安全な医療  
2. 救急医療  
3. 国内外の医療救援活動  
4. 地域連携  
5. 教育・研修・研鑽  
6. 患者・職員満足度の向上
- 臨床研修理念：赤十字の一員としての自覚を持ち、プライマリ・ケアを中心に医師として必要な基本的診療能力を身につけながら、あわせて人格を涵養することを目的としています。また、患者さんやご家族のニーズを理解して、多職種と密な連携を図りながら、求められる最良の医療を提供するための研修となることを目指します。
- 臨床研修基本方針：1. 人格の涵養  
2. 基本的診察能力の習得  
3. 積極的な救急医療への参加  
4. 地域を含めたチーム医療  
5. 医療救援活動への参加  
6. 主体的な研修・研鑽

1) 名称：福岡赤十字病院

2) 所在地：福岡市南区大楠三丁目1番1号

3) 開設年月日：昭和27年4月

4) 院長：中房 祐司

5) 病床数：511床（一般509床 感染2床）

6) 診療科：循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、呼吸器内科、膠原病内科、総合診療科、感染症内科、血液腫瘍内科、外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、産婦人科、小児科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、歯科・口腔外科、病理診断科

7) 患者数：	<令和3年度>	<令和4年度>	<令和5年度>	<令和6年度>
入院（1日平均）	438.7人	445.6人	448.5人	468.0人
外来（1日平均）	948.4人	979.1人	975.8人	968.3人

8) 職 員 数：1, 181名 令和7年4月1日現在

(医師数186名、うち研修医数30名(たすきがけ研修医4名含む))

9) 沿革・特徴：福岡赤十字病院は、昭和22年12月、現在地に福岡診療所として開設、昭和27年4月に福岡診療所を『福岡赤十字病院』に改称し、内科、外科及び産婦人科による50床の病院として発足しました。

地域の中核的役割を担う当院は、昭和56年10月に地方腎移植センターの指定を受けるとともに、平成13年3月に脳センターを開設、また翌年4月には救急科を開設し、循環器救急(循環器内科、心臓血管外科)とともに、地域の救急医療にも積極的に取り組んでいるところであります。また、平成11年5月には、地域災害拠点病院に指定されるなど、赤十字の基本方針である人道・博愛・奉仕の精神のもと、人々に信頼される病院づくりを心掛けております。

# 広域連携型初期臨床研修プログラム

---

## 1. プログラム名称

福岡赤十字病院広域連携型初期臨床研修プログラムA

## 2. プログラムの目的と特徴

臨床医を目指す研修医のための2年間の広域連携型初期臨床研修プログラムです。本院と高山赤十字病院でプライマリ・ケアを中心に医師として必要な診療能力を身に付け、あわせて人格を涵養することを目的としています。2年次の6ヶ月間、異なる医療現場を経験することにより、キャリアの選択肢が広がり、自身の適性に気づく契機となります。本プログラムは、本院と高山赤十字病院、今津赤十字病院、嘉麻赤十字病院、今宿病院および河野名島病院で研修を行います。このプログラムを修了することにより厚生労働省の臨床研修の到達目標を達成することができます。

## 3. プログラム責任者と参加施設

### 1) プログラム責任者（兼研修実施責任者）

福岡赤十字病院 呼吸器外科部長 小島 雅之

### 2) 副プログラム責任者

福岡赤十字病院 総合診療科副部長 川本 徹

### 3) 基幹施設

福岡赤十字病院

### 4) プログラムに参加する施設

福岡赤十字病院および高山赤十字病院の全診療科、今津赤十字病院および嘉麻赤十字病院での地域医療、今宿病院、河野名島病院での精神科研修

### 5) 協力型病院及び協力施設における研修実施責任者

#### ①高山赤十字病院（協力型病院）

教育研修推進室長 白子 順子

#### ②今津赤十字病院（協力型病院）

副院長 尾前 豪

#### ③今宿病院（協力型病院）

院長 佐伯 祐一

#### ④嘉麻赤十字病院（協力型病院）

副院長 金本 孝樹

#### ⑤河野名島病院（協力施設）

院長 津田 泰夫

## 4. プログラムの管理運営

当院院長を委員長とし、研修実施指導者（指導医）や看護部門、医療技術部門の責任者等で構成される研修管理委員会を開催し、研修プログラムの全体的な管理（プログラム作成、修正、承認）、研修医の全体的な管理（研修医の募集、研修プログラムへの研修医の配置、各研修医の研修計画

の検討、研修医の研修継続の可否、研修医の処遇及び健康管理)、研修医の研修状況の評価(研修目標の達成状況の評価、研修終了時及び中断時の評価)等を行います。

毎年3月の研修管理委員会において前年度の研修プログラムの評価を行うとともに、その年度の研修プログラムを協議し作成します。

研修管理委員会のもとに研修医検討委員会をおき、採用試験の実施、各研修医のローテーションの管理、臨床研修目標への到達度の評価及びそのための援助、研修記録の管理及び保存、研修医の処遇の検討など、臨床研修が円滑に実施されるように実務を行います。

## 5. 研修医の定員及び選考方法

### 1) 定員

1名

※マッチングに参加いただき、下記選考方法により順位を決定します。

### 2) 選考方法

提出書類の審査、面接のうえ採用を決定します。

## 6. 研修教育課程

### 1) 期間割りと研修医の配置(スーパーローテート方式)

#### <1年目>

内科26週、救急科13週、外科9週、麻酔科4週で1年間(52週間)とします。内科は、腎臓内科、循環器内科、脳神経内科、呼吸器内科、総合診療科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病内科、感染症内科、膠原病内科、血液腫瘍内科の11診療科のうち6診療科を各4週から5週間研修します。救急科は、13週間救急車の対応およびICU患者を担当し、交替制勤務となります。外科は、一般外科のみを9週間研修します。麻酔科では、気管挿管を軸に4週間研修します。

#### <2年目>

内科12週、産婦人科4週、小児科4週、地域医療8週、精神科4週、救急科4週および選択科目16週で1年間(52週間)とします。6ヶ月間、高山赤十字病院で内科、小児科および選択科目の研修を実施します。産婦人科は、病棟および外来での研修となり、地域医療は今津赤十字病院および嘉麻赤十字病院にて、精神科は今宿病院または河野名島病院で研修します。選択科目の研修は当院及び高山赤十字病院で実施することとし、希望できる診療科は次の通りです。

#### <福岡赤十字病院>

**内科系**：循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、肝臓内科、膠原病内科、総合診療科、呼吸器内科、感染症内科、糖尿病内科、血液腫瘍内科、小児科、放射線科、病理診断科

**外科系**：外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、皮膚科、麻酔科、救急科

#### <高山赤十字病院>

**内科系**：内科、消化器科、呼吸器科、血液内科、循環器内科

**外科系**：整形外科、脳神経外科

2026年度初期臨床研修医研修スケジュール（例）

（1年次）

救急13週 麻酔科4週 外科9週 内科26週 ※1Wにはオリエンテーション3日含む

福岡赤十字病院(基幹型)			
1W～13W	14W ～17W	18W～26W	27W～52W
救急科 13週	麻酔科 4週	外科 9週	内科 26週

※研修の順番は不同とし、各診療科に均等に配置します。

（2年次） ※2027年度から開始

救急4週 小児4週（広域連携先） 産科4週 地域8週 精神4週 内科12週 選択16週（うち広域連携先12週）

福岡赤十字病院 (基幹型)		高山赤十字病院 (協力型)			協力型病院 (協力施設)		福岡赤十字病院 (基幹型)
1W～4W	5W～8W	9W～36W			37W～44W (在宅医療1W含む)	45W～48W	49W～52W
選択科目 4週	産婦人科 4週	内科 12週	小児科 4週	選択科目12週 整形外科6週・脳神経外科6週	地域医療 8週	精神4週	救急科4週
		選択科目12週 内科		小児科4週			

※研修の順番は不同とします。

※2年次に当院で4週、高山赤十字病院で16週を選択科目に充当しますが、連続しないこともあります。

※当院での研修中は2年間を通じ月に6回～8回の割合で副当番医師として時間外業務を担当します。

2) 研修内容と到達目標

(1) 研修内容

2年間の臨床研修によりプライマリ・ケアにおける基本的な診療能力を習得することができるとともに、厚生労働省の臨床研修の到達目標を達成することを目的とします。

プログラム1年目は、上記の期間割りで、内科は26週の間6～7診療科を研修し、救急科13週、外科9週、麻酔科4週を研修します。この研修順序は研修医により異なります。

当院は一つの科目に研修医が集中しないように指導医と研修医の協議のもと研修医検討委員会にて配置を決定します。

プログラム2年目は、産婦人科4週、救急科4週、地域医療(一般外来4週並びに在宅診療1週含む)を今津赤十字病院、嘉麻赤十字病院で8週、精神科を今宿病院または河野名島病院で4週行います。さらに、高山赤十字病院で6ヶ月間研修を行い、その間に内科研修12週、小児科研修をそれぞれ4週間ずつ行います。なお、当院で4週、高山赤十字病院で12週を選択科での研修とします。但し、必須項目等研修到達目標に達していない研修医は選択科目の一部を再研修にあてます。選択科については、上記の科より選択して希望の科の研修をうけることが可能です。

また、※勉強会・指定する講演会(院内・院外)への参加は必須です。

※感染対策、予防接種等を含む予防医療、虐待への対応、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)、臨床病理検討会等の基本的な診療において必要な分野・領域等に関する研修を含みます。

初期臨床研修中に経験すべき29症候と経験すべき26疾病・病態は以下のとおりです。

#### 【経験すべき症候－29症候－】

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常(下痢・便秘)、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害(尿失禁・排尿困難)、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

#### 【経験すべき疾病・病態－26疾病・病態－】

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)

経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常診療において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン(診断、治療、教育)、考察等を含む。

## (2) 到達目標

内科、外科、小児科、産婦人科、精神科の研修では、主として病棟に10名程度の患者を受け持ち、厚生労働省の臨床研修の到達目標を達成すべくプライマリ・ケアを中心に幅広い医学知識と基本的な診療技術を習得します。救急・麻酔科研修では、救命救急に必要な知識と技術を習得します。副当直では、ウォークインを中心に外来診療やプライマリ・ケア研修を行います。地域医療研修では、一般病棟及び療養型病棟等での研修を行います。

また、各診療科の研修修了時には、速やかに研修のまとめを記入し指導医の指導を受けることが必要です。また、PG-EP-OCに研修の到達状況を入力することが必要です。

## 3) 勤務時間、休暇、その他

#### (1) 勤務時間

原則として午前8時30分から17時10分までですが、状況に応じて時間外研修となることもあります(休憩時間12時5分～13時迄の55分)。

出勤時および退勤時は勤怠カードを用いて勤怠管理システムに打刻を行う必要があります。

高山赤十字病院での研修、地域研修及び精神科研修中は、研修先の病院の就業規則に則って研修を行います。

#### (2) 休 暇

1年次に13日、2年次に14日の休暇(6ヶ月継続勤務後)を取得できます。

なお、休暇等を利用して海外渡航する場合は人財開発課に事前申出を行ってください。

#### (3) その他

忘年パーティーへの参加および当院医療費の補助を行っています。野球・ソフトボール・硬式テニス・駅伝・フットサル・女子バレー等のクラブ活動への参加が可能です。希望者は英国人教師による英会話教室(毎週1回、月2,000円)に参加できます。

### 4) 教育に関する行事

#### (1) 入社式

新採用職員は4月1日の入社式後、終日オリエンテーションを行います。

#### (2) オリエンテーション

入社式より2日間新採用研修医は、院内諸規定、施設整備の概要と利用法、健康保険制度、医事法規、医療事故防止、電子カルテ記載法、カルテ管理、研修プログラム、病診連携対応法、採血などについて一連のレクチャーを行います。

#### (3) その他

院内研修医勉強会、院外研修医勉強会(医師会、大学病院、福岡循環器救急カンファレンス等)、研修医能力試験、剖検・臨床病理検討会(CPC)、各科の回診、症例検討会、セミナー、抄読会、1年次に日本赤十字社本社主催の研修会などがあります。

### 5) 指導体制

#### (1) 各診療科

研修医1～2名に対して指導医1名が指導を行います。研修医は1名あたり10名程度の患者を受け持ち、副主治医として診療の実践にあたります。指導医は患者の主治医として診療するとともに研修医の指導にあたります。また、各々の診療科の部長及び医師がサポートします。

#### (2) 当直業務

内科系当番医(時間外医)とともに副当番医(時間外医)として月6～8回程度、夜間・休日の救急患者の診療や治療にあたります。

#### (3) 地域医療

今津赤十字病院及び嘉麻赤十字病院での地域医療研修を2カ月間実施し、研修中は研修先の就業規則に則って研修を行います。

研修先は、適切な指導体制のもとで、患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療(在宅医療を含む)について理解し実践するという目的を達成するために協力型臨床研修病院である今津赤十字病院、嘉麻赤十字病院にて実施します。

地域医療8週間の研修期間中に、一般外外来研修を4週間実施します。症候・病態については、適切な臨床推論プロセスを経て解決に導き、頻度の高い慢性疾患の継続診療を行うために、特

定の症候や疾病に偏ることなく、原則として初診患者の診療及び慢性疾患の継続診療を含む研修内容となっています。地域医療研修修了時には、コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、単独で一般外来診療を行えることが目標となっています。

#### (4) 精神科

今宿病院及び河野名島病院での精神科研修を1カ月間実施し、研修中は研修先の就業規則に則って研修を行います。精神科での研修では、精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、精神科外来又は精神科リエゾンチームでの研修を含みます。また、可能であれば、すでに診断のついた慢性期の患者だけでなく、急性期の入院患者の診療も行います。

#### (5) 広域連携

高山赤十字病院での研修を6ヶ月間実施し、研修中は研修先の就業規則に則って研修を行います。地域の1次から3次までの救急を担当するとともに、超急性期から急性期、慢性期、回復期、高齢者医療まで幅広い医療を学びます。研修する各科の指導責任者の総括の下に、原則、研修医1名に指導医又は上級医1名が指導にあたります。時間外救急外来での救急疾患に関する研修は、救急部長の監督の下、上級委が指導します。28週間の研修期間中に内科12週、小児科4週間、選択科で12週間研修します。

### 7. 研修の評価法

オンライン卒後臨床研修評価システム(PG-EPOC)を使用します。指導医は研修医の到達目標達成を指導援助します。

また、年に一度、地域の代表者や救急隊員等へのアンケートを実施し、研修の質の向上に役立っています。

### 8. 研修プログラム修了の認定

各研修医から、研修到達目標が達成されたことを自己申告された研修管理委員会は、評価のうえ研修の修了を認定し、この研修プログラムを修了したことを記した<研修修了証書>を病院長の承認のもとに授与します。

### 9. 研修プログラム修了後のコース

当院の下記診療科において引き続き専攻医として研修が可能です。日本赤十字社が認定する専門研修プログラムにおいて臨床修練いただき、専門医取得を目指します。

**内科系**：循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病内科、呼吸器内科、膠原病内科、感染症内科、総合診療科、小児科

**外科系**：外科、心臓血管外科、産婦人科、麻酔科、救急科、皮膚科

### 10. 研修医の処遇

- |        |                |
|--------|----------------|
| (1) 身分 | 常勤嘱託職員         |
| (2) 給与 | 与：1年目 280,000円 |
|        | 2年目 300,000円   |
| (3) 賞与 | 与：1年目 なし       |
|        | 2年目 なし         |

- (4) 手当：通勤手当（片道2km以上）、宿日直手当、住居手当（上限15,000円）等
- (5) 時間外手当：あり
- (6) 社会保険等：健康保険  
厚生年金  
雇用保険
- (7) 宿舎等：なし
- (8) 研修医室：あり
- (9) 健康管理等：定期健康診断あり（年2回）
- (10) 医師賠償責任保険：個人にて加入
- (11) 外部の研修活動：学会、研究会等への参加可 ※「研修医の学会出張等に関する規約」による
- (12) 兼職について：兼職（アルバイト等）については認められない。

#### 1.1. 出願手続き

- (1) 応募資格：医学部卒業者（ただし2026年3月施行医師国家試験受験者）および2026年3月医学部卒業予定者で全国マッチングプログラムに参加の者
- (2) 出願書類：次の書類を人財開発課まで提出して下さい。
  - ① 臨床研修申込書（ホームページよりダウンロード）
  - ② 履歴書（ホームページよりダウンロード）
  - ③ 卒業（見込）証明書
  - ④ 成績証明書
  - ⑤ 大学からの推薦状（自由書式）
  - ⑥ 返信用封筒（返信用切手貼付）
  - ⑦ 小論文

#### 1.2. 選考方法、選考日及び応募締切

選考方法：適性検査、小論文、面接

選考日：7月上旬予定

応募締切：6月中旬予定

面接場所：本館4階 特別会議室

#### 1.3. 研修開始日

2026年4月1日

#### 1.4. 申し込み・問い合わせ先

〒815-8555 福岡市南区大楠三丁目1番1号

福岡赤十字病院 人財開発課 【担当】白石、古田

電話 0570-03-1211（内線2410）

FAX 092-522-3066

E-mail: kenshuusuisin@fukuoka-med.jrc.or.jp